

平成29年度 政務活動報告書

会派又は議員名 鈴木 岩夫

政務活動期間	平成29年9月25日（1日間）
政務活動先	別海町
政務活動参加者	鈴木 岩夫（1名）
政務活動項目	○特殊出生率は、いかにして高められたか ・農業後継者問題と新規就農対策の実際 ・農業後継者問題と花嫁対策の実施
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

2017年研修視察（政務活動研修）報告

当別町議会議員 鈴木 岩夫

1 研修視察地 別海町（根室管内）

- (1) 日時 2017年9月25日（月）13:00～15:00
- (2) 場所 別海町役場
- (3) 研修項目 「特殊出生率は、いかにして高められたか」
 - ① 農業後継者問題と新規就農対策の実際
 - ② 農業後継者問題と花嫁対策の実際

2 研修内容

(1) はじめに 「別海町農業・農村をめぐる情勢」について

別海町産業振興部次長（農政課長）（別海町地域担い手育成総合支援協議会事務局長）門脇芳則さんと廣島主査に説明していただきました。

- ① 人口は、昭和35年をピークに減少傾向にあり、平成28年は15,106人（6,357世帯）となっている。
- ② **第1次産業と第3次産業**が主力で15歳以上の就業者数は、8,507人（H27）となっている。産業全体の生産額は、約1,702億円となっており、うち農業は584億円と約34%を占めている。商工業においては、農業関連業種が多く、特に工業においては大手乳業3社の工場が立地していることから、出荷額が691億円となっている。
- ③ **農家戸数**は、昭和36年に約2,600戸あったが、平成28年には746個まで減少し、近年においても漸減傾向を示している。特に、直近5か年の平均を見ると、離農農家戸数約20戸に対し、新規就農戸数は約3戸となっており、減少分をカバーすることは困難な状況となっている。また、高齢化が進展するとともに、規模拡大に伴い法人経営が増加傾向にある。なお、農家戸数のうち約90%が生乳生産農家となっている。

(2) 別海町酪農担い手対策について

同じく別海町産業振興部次長（農政課長）（別海町地域担い手育成総合支援協議会事務局長）門脇芳則さんと廣島主査に説明していただきました。

「新規就農対策」について

- ① 別海町は、平成27年度から、農政課内に「担い手対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、担い手対策に係る現状と課題を洗い出し、今後の対策を検討し、このプロジェクトチームで検討された内容をベースに、町、農協、普及センター、農業委員会で構成する「別海地域担い手育成総合支援協議会」による担い手対策に取り組んでいるとのことです。
- ② 平成8年、離農に拍車がかかることが予想されたことから、新規参入者や酪農後継者が酪農の知識・技術・経営感覚を習得・研鑽する場として、「別海町酪農研修牧場」を設立しています。設立以来72組が就農しているとのことです。
- ③ また、単身者の研修生を受け入れ、研修終了後は酪農ヘルパー、農業生産法人への就職など、幅広い体制により地元貢献の一役も担っているとのことです。

「花嫁対策」について

- ① 別海町では、50年以上前の昭和49年より「別海町農漁村結婚相談所」が設立され、平成11年に現名称の「別海町産業後継者対策相談所」へ変更され、町内産業発展のため優れた担い手を育成し併せて基幹産業後継者のパートナー問題の早期解決を図ることを目的に役場職員1名、農協職員1名を配置して活動を行ってきているとのことでした。
- ② その一つに「出会い」「巡り合い」の場を提供し、パートナーとの交流を図る『菊と緑の会』を実施するのは他と変わりはないと思いました。
- ③ しかし、『菊と緑の会』は、昭和59年の第1回から毎年開催され今年で第34回を迎え、33回までに参加青年599名、参加女性613名91組が成婚されているという報告には驚きました。
- ④ また、この会をきっかけに再度別海町を訪れたいとの女性が多く、酪農以外の仕事に就いた方や、酪農実習として訪町し、それが縁で結婚された方など地域振興にも貢献しているというのです。
- ⑤ 更にすごいなと思ったのは、『菊と緑の会』が縁で結婚された皆さんは幸せに生活しておりますが、慣れない酪農の仕事の毎日、そして出産、育児と大変な負担が加わり、家族の理解と協力は不可欠であります。こうした家族の愛情に加えて『菊と緑の会』で結婚された皆さんで設立した『菊と緑の会友の会』という組織があるというのです。この会は『菊と緑の会』で結婚された皆さんが、家族ぐるみ一堂に会して情報交換あるいは励まし合い、助け合い、多目的に開催されるもので、若いお嫁さんには精神的に大変励みになっている集まりだというのです。

「充実した子育て環境について

出生率1,86と全道で、えりも町に次いで第2位の秘策が少しわかったような気がした研修でした。

様々な施策は勿論ですが、何より町立病院と母子健康保険センターを助産師10名が結び妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実現していることにおどきました。